

「公印省略」

3農林試第930号
令和3年6月2日

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和3年度病虫害発生予察技術情報第1号について(送付)

このことについて、病虫害発生予察技術情報第1号(ツマジロクサヨトウ)を発表しましたので送付します。

技術情報第1号

1 対象作物名: スイートコーン、飼料用トウモロコシ

2 病虫害名: ツマジロクサヨトウ

3 発生状況

筑紫野市に設置しているフェロモントラップにおいて、5月24日に雄成虫の初誘殺が確認された(昨年は5月28日に雄成虫の初誘殺を確認し、その後6月上旬に県内ほ場で幼虫が確認された)。

4 防除上注意すべき事項

今後気温が高まると、本虫の発生は多くなることが予想されるため、防除適期を失うことがないように注意する。

(1) 早期発見

生育初期に幼虫(写真1、2)が食害すると被害が大きくなるため、ほ場をよく見回り早期発見に努める。発生は幼虫による葉の食害痕(写真3)や虫ふん(写真4)の有無を確認することにより行う。

(2) 農薬散布

- ① 農薬散布の特例(植物防疫法第29条)に基づく防除が終了し、前年に使用できた農薬の中には本年使用できないものもあるため、**防除では適用のある農薬(別紙 ツマジロクサヨトウに適用がある農薬一覧)を使用する。**
- ② 農薬の散布にあたっては、新葉の葉しょう基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかり散布する。
- ③ 隣接農作物の栽培者に対して、散布予定農薬の種類や時期等を事前に連絡するなど、周辺作物への農薬の飛散(ドリフト)には十分注意する。
- ④ 老齢幼虫になると農薬の効果が低下するため、可能な限り若齢幼虫のうちに防除する。



写真1 ツマジロクサヨトウ老齢幼虫



写真2 被害株と中齢幼虫



写真3 幼虫食害葉



写真4 食害部と虫ふん

*** 発生態や防除に関する情報については農林水産省 HP を参照。**

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



ツマジロクサヨトウに適用がある農薬一覧(令和3年5月28日現在)

○飼料用トウモロコシ

農薬の種類	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤	発生初期但し、収穫前日まで	500倍	—
カルタップ水溶剤	収穫21日前まで	1000～1500倍	2回以内

○とうもろこし【とうもろこし(子実)、未成熟とうもろこし】

(スイートコーンは「未成熟とうもろこし」に含まれるため、「とうもろこし」と「未成熟とうもろこし」が使用可能である。)

農薬の種類	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤	発生初期但し、収穫前日まで	500倍	—
カルタップ水溶剤	収穫21日前まで	1000～1500倍	2回以内
エトフェンプロックス乳剤	収穫7日前まで	1000倍	4回以内
クロラントラニリプロール水和剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内
フルベンジアミド水和剤	収穫前日まで	2000～4000倍	2回以内
メタフルミゾン水和剤	収穫前日まで	1000倍	3回以内
MEP乳剤	収穫7日前まで	1000倍	4回以内※
フェンバレレート・MEP水和剤	収穫7日前まで	1000～2000倍	

※MEP乳剤とフェンバレレート・MEP水和剤は同一成分を含むため、使用回数は合算して4回以内である。

○未成熟とうもろこし

農薬の種類	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
テトラニリプロール水和剤	収穫前日まで	5000倍	3回以内
シアントラニリプロール水和剤	収穫前日まで	4000倍	3回以内
クロチアニジン水溶剤	収穫3日前まで	2000～4000倍	3回以内
エマメクチン安息香酸塩乳剤	収穫3日前まで	1000～2000倍	2回以内
フルフェノクスロン乳剤	収穫7日前まで	2000倍	2回以内